

研究紀要

研究主題

自己の考えを広げ、表現する児童の育成



令和5年3月24日(金)
新座市立新堀小学校

令和4年度 研究の全体構想図

学校教育目標

学ぶ子ども 仲よくする子ども 健康な子ども はたらく子ども

児童の実態

- ①元気がある ②明るい ③あいさつができる
- ④子どもらしさがある ⑤外でよく遊ぶ

教師の願い

- ①忍耐力がない ②苦手なことを避ける
- ③甘えん坊が多い ④自立、自律していない

研究主題

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

目指す児童像

【低学年】

自分の考えをもち、表現することができる。

【中学年】

根拠をもって考えを伝え合い、自分の考えを広げることができる。

【高学年】

多様な意見を受け入れ、考えたことを論理的に表現することができる。

手立て1

自己を表現させる

低

自分の考えをもって、理由を説明できるようにする。友達の考えを聞いて、同じところや似ているところ、ちがうところ、付け足すところなどを伝える。話型を使う。ペアの活動、対話をする。質問と応答を入れる。目的意識、相手意識をもつ。

中

話したり書いたりするときに考えに理由を付けられる。型を用意する。語彙力を付ける。日記・作文・スピーチを日常に組み込む。

高

語彙力をつける。作文や日記、新聞スクラップなどで自分の考えをまとめたり要約したりする。

手立て2

他者に表現させる

低

導入単元で、一時間目で意図をもった指導をする。ペアでお互いに話をさせていく中で、質問して答えていく。

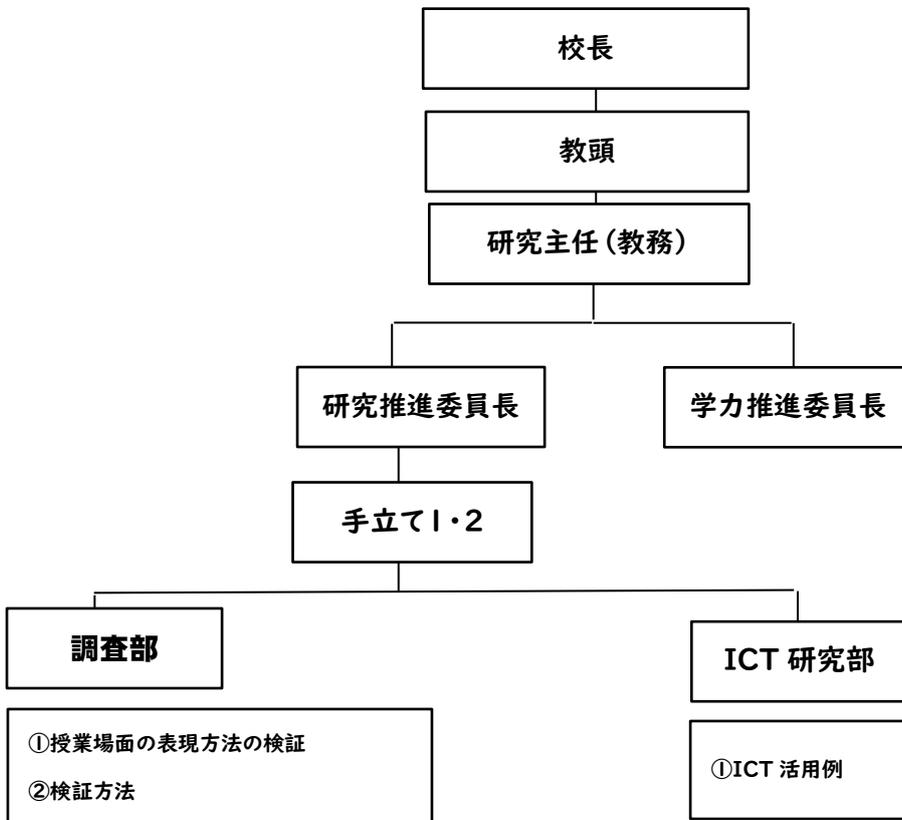
中

聴き方+表現。尋ね方を学ぶことで表現が広がる。話し合いの工夫を学校で作る。聞き上手を増やす。

高

相手に伝わりやすいように話し方や表現の仕方を工夫する。話し合い活動を中心に他者と会話する機会を増やす。

令和4年度 研究の組織図



第〇学年〇組 〇〇科学習指導案

令和〇年〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
 場 所 〇年〇組 教室
 在籍児童数 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇名
 指 導 者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 単元名 〇〇
- 2 研究主題について

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

- 3 目指す児童像

- (1)手立て① 自己の考えをもつこと ※自己を表現させるためにどのようなことをしてきたか。するのか。
 (1)手立て② 表現すること ※他者に表現させるためにどのようなことをしてきたか。するのか。

【留意事項】

- 1 単元名と () 教材名・領域を書くこと
- 2 研究主題 そのまま
- 3 目指す児童像
 本単元を通して目指す児童像を書く。(研究主題と関連)

- (1) 手立てについて
 自身が選んだ手立て①か②のどちらかについて書く。
 本単元で目指す姿に向かうために、どのような手立てをとるのかを明記する。

- 4 単元の指導計画 (全〇時間扱い)
 ~〇【本時】、~〇、~〇、~〇、~〇

〇数字は時数を明記する。(参考指導案)

- 5 本時の指導 (2/7時間目)

- (1)目標
 〇~【資質・能力】
- (2)評価規準
 A :
 B :
- (3)展開

	学習活動 〇主な発問	・指導上の留意点 ☆評価の観点 【】 研究の手立て	時間
導 入			10 分
展 開	教科によって変更可。 (例) 導入 展開 終末など 教育課程編成要領参照。		28 分
整 理			7 分

- (4)板書計画 (体育の場合は場づくり)

第2学年2組 国語科学習指導案

令和4年1月31日（火） 第5校時
 場 所 2年2組教室
 在籍児童数 男子18名 女子15名 計33名
 指 導 者 教 諭 信 太 健 一

1 単元名・教材名

だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう
 「おにごっこ」

2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、読むことの学習において、文章の概略をつかむために問いと答えを見つける活動に繰り返し取り組んでいる。本教材文では、「初め・中・終わり」の構成を意識して内容を読み取っていく学習を通して、中学年の「段落相互の関係に着目しながら読む」ことにつなげていく。

1年

「うみのかくれんぼ」・大事な言葉を確かめながら読む。

2年

「たんぼぼのちえ」・順序やわけに気をつけて読む。

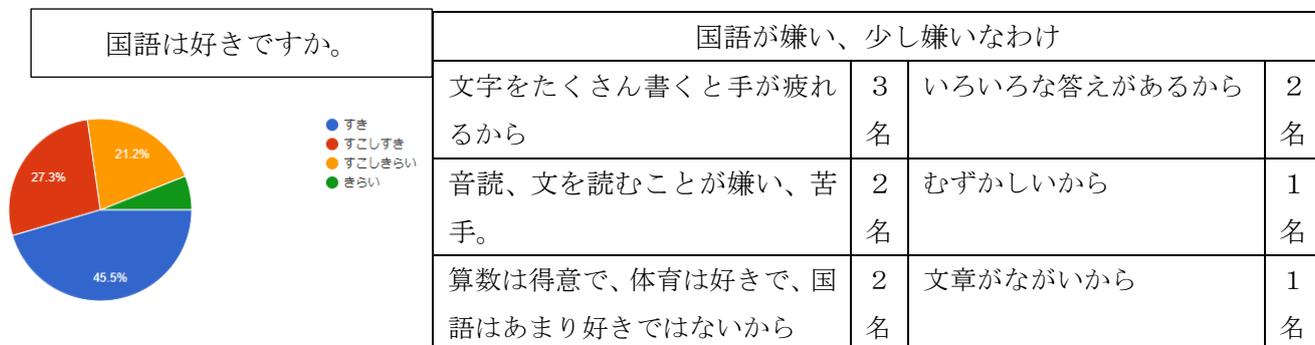
「どうぶつ園のじゅうい」・時間の順序に気をつけて、自分の考えをもちながら読む。

「馬のおもちの作り方」・順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりして読む。

本単元

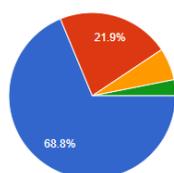
「おにごっこ」・大事な言葉や文を見つけ、話題や自分の知りたいことを明らかにして読む。

本学級では、22名の児童が「国語が好き」あるいは「少し好き」と答えており、国語好きが多いといえる。一方で、11名の児童は「国語が嫌い」あるいは「少し嫌い」と答えている。

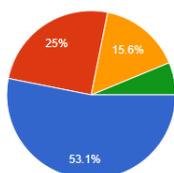


本学級の多くの児童は、自分の考えをもち、それを友達と伝え合いながら学んでいる。アンケート1の結果から、自分の考えをもって学習に取り組んでいる児童が29名いることがわかる。一方で、アンケート2の結果からは、自分の思いや気持ちを友達と伝え合っている児童が25名いることがわかる。アンケート3で「自分一人で考えること」を望む児童がいることが、アンケート1とアンケート2の結果にも影響している。

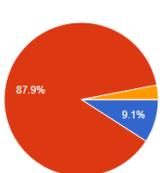
<p>〈アンケート1〉 自分の考えをもって、学習していますか。</p>	<p>〈アンケート2〉 自分の思いや気持ちを友達と伝え合っていますか。</p>	<p>〈アンケート3〉 国語の学習で好きな学び方はありますか。</p>
---	---	---



● はい
● すこしはい
● すこしいいえ
● いいえ



● はい
● すこしはい
● すこしいいえ
● いいえ



● 自分一人で考える
● とちだちと考える
● 先生がしつもんして、手をあげて考える
● とちだちの話を聞いて考える

本単元の目標である「だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう」は、小学校学習指導要領国語編1・2年の〔思考力、判断力、表現力等〕内容項目C読むことの指導事項ウ精査・解釈とカ共有にあたる。これらは、小学校学習指導要領解説国語編によると以下の通り示されている。

ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

第1学年及び第2学年では、アの指導事項で順序を考えながら文章の内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことを示している。文章の中の重要な語や文とは、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文、読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文などのことである。考えて選び出すとは、例えば、「書き手が伝えたいことは何かを考える」、「自分が知るべきことについて詳しく知る」といったことを意識しながら、重要だと考えられる語や文を文章の中から見付けることである。

カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

文章を読んで感じたことや分かったことを共有することを示している。文章を読んで感じたことや分かったこととは、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、「おもしろいな」と感じたり「なるほど」と気付いたりすることである。これらの感想や気付きは、オの指導事項の指導を通して形成されるものであり、カの指導事項では、そうした一人一人の感想などを互いに共有し合うことが求められる。共有するとは、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることであり、感想などを書いて読み合ったり発表したりするなど様々な言語活動によって行うことが考えられる。

そこで本教材「おにごっこ」では、鬼ごっこの遊び方の工夫を表す大事な言葉を見つけて、工夫する理由やその遊びの良さを読み取らせる。さらに、いろいろな鬼ごっこや他の遊びについて書かれた本を読んで、遊び方やそのおもしろさなどを説明できるようにする。

3 単元の目標

- (1) 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〈知識及び技能〉(3) エ
- (2) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ
- (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 単元で取り上げる言語活動

学校図書館などを利用し、目的をもって本を読み、感じたことや分かったことを説明する。

(関連：言語活動ウ)

5 研究主題

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

6 本単元の学習を通して目指す児童像

教材文から重要な語や文を考え、分かった内容を相手に伝わるように説明する児童

(1)手立て① 自己の考えをもつこと

単元の前半で教材文「おにごっこ」を読み、筆者が述べている事柄を捉えるために、時間や事柄の順序に気をつけながら文章の中で重要な語や文に線を引かせる。その際、「遊び方」「おもしろさ」という問いと答えの視点を押さえる。線を引いた「おもしろさ」のわけを叙述をもとに考えさせ、自分の言葉で説明させる。重点である「重要な語や文」をただ見つけるのではなく、なぜ重要だと思ったのか自分の考えをもたせることで単元後半の言語活動につなげていく。

単元の後半では、ウの指導事項をもとに〔知識及び技能〕(3)エを指導する。文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して得た感想や気付きを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりすることで、様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。単元前半で学習した「重要な語や文」を本から読み取り、メモにまとめ、相手に伝わるように順序立てて紹介することを目指す。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)	①文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ②文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①進んで、文章の中の重要な語や文を考え、学習活動に沿って分かったことが相手に伝わるように工夫して、順序立てて遊びを紹介したりしようとしている。

8 指導と評価の計画 (全12時間扱い)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているおにごっこや遊びについて出し合わせる。他の遊びについて知るために、遊びについて書かれた本を読ませる。 ・本を読んで知った遊びを紹介し合うことを通して、「だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう。」という学習課題を設定することができるよう指導する。 	

2	○P93「本でのしらべ方」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいことを確かめて読むことや、分かったことなどをメモすることを確かめる。 ・P91 説明の吹き出しを読んで、説明のしかたを確かめさせる。 	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	○説明のしかたを確かめながら文章を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような事柄がどのような順で説明されているか確かめながら読むように指導する。 ・それぞれの「遊び方」がどのような「おもしろさ」につながるのか、教材文の問いと答えの文から考えさせる。 ・それぞれの遊び方の良さを考え、比べさせる。 	<p>[思考・判断・表現①]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中から重要な語や文を見つけているか確認する。
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10	○おにごっこや他の遊びについて本を読んで調べ、説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊び方」を探しながら繰り返し読ませる。 ・調べたことを箇条書きで付箋にメモするよう指導する。 ・付箋を使って紹介する事柄の順序を決めさせる。 ・紹介のモデルを参考に簡単な発表メモや原稿を作って練習するよう指導する。 ・もっとわかりやすくするために、どのような「説明のしかた」がよいかを考えさせる。 	<p>[知識・技能①]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみ、いろいろな遊びを知っているか確認する。
11	○説明の伝わり方を確かめ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・説明し合った遊びを実際にさせる。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p><u>メモ、原稿、観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや分かったことを伝えているか確認する。
12	○学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で、文章を読むときは大事な言葉や文を考えることを確かめる。 	

9 本時の学習指導（本時5／12時）

(1) 目標

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

(2) 評価規準

文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時のめあてを確認する。		○前時までの学習を想起させ、本時の学習課題を設定する。	3分
おにごっこの遊び方とそのおもしろさを説明している語や文は、どこにあるだろうか。			

<p>2 第4段落の遊び方が書かれた文に線を引く。</p>	<p>○鬼ごっこの遊び方</p>	<p>○問いかけ①（遊び方）を確かめる。 ○第4段落を4文に分け、1文ずつ読み取らせる。 ○学習の仕方を選ばせる。（個人、ペア、グループ） ○問いかけに対応する答え①（交代なし、鬼が増える）が書かれている文を見つけさせる。</p>	<p>1 0 分</p>
<p>3 おもしろさが書かれた文に線を引く。</p>	<p>○その遊び方のおもしろさ。</p> <div data-bbox="414 616 750 772" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈押さえない表現の例〉 ・交代なし。鬼が増える。 ・つかまえやすさ、にげの工夫、どきどき</p> </div>	<p>○問いかけ②（おもしろさ）を確認する。 ○「この遊び方だと、鬼と逃げのどちらがいいですか。」「そのわけが書かれた文を探します。」 ○問いかけに対応する答え②（つかまえやすさ、にげの工夫、どきどき感）が書かれている文を見つけさせる。</p>	<p>1 2 分</p>
<p>3 遊び方のおもしろさを考える。</p>	<p>○おもしろさのわけ</p> <div data-bbox="414 873 750 1075" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈期待される児童の反応〉 ・「もっと」という言葉の役割→前述の内容と比較する言葉である。逃げがどきどきすることもふえて、おもしろくなる。</p> </div> <div data-bbox="414 1108 1372 1265" style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>【評価観点】 ＜評価方法＞・教科書、発言 ＜「努力を要する」状況(C)への手立て＞ ・遊びのきまりを探させる。 ・鬼の視点と逃げの視点でおもしろさを考えさせる。</p> </div> <div data-bbox="414 1276 1372 1478" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【手立て① 自己の考えをもつ】 <評価方法＞・教科書、発言 [十分到達している児童(A)の姿] 第4段落の遊び方で自分が思うおもしろさのわけを書いたり、説明したりしている。 [努力を要する状況(C)への手立て] 線を引いた語や文の根拠を叙述や対話を通して考えさせる。</p> </div>	<p>○「この遊び方をおもしろいと思いますか。」 ○ロイロノートに一人一人わけを書かせ、自分の考えをもたせる。 ○鬼の視点と逃げの視点のどちらを選んでもよいことを確認する。</p>	<p>1 0 分</p>
<p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○遊び方とそのおもしろさ</p>	<p>○問いかけに対応する答え①（交代なし、鬼が増える）と答え②（つかまえやすさ、にげの工夫、どきどき感）を確認する。</p>	<p>5 分</p>
<p>6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○めあてに対する振り返り ○次時の見通し</p>	<p>○「〇〇したら、～だった。ともだちの考えから～思った。〇〇と思ったから～したい。」など振り返り方を確認する。 ○次時の見通しをもたせ、意欲を高める。</p>	<p>5 分</p>

ともだちと学しゅうした
こと

○○さんと、○○した
ら、○○できた。

○○くんと、○○した
ら、○○がわかった。

つぎにしたいこと

○○がわからなかった
から、つぎは○○した
い。

○○ができなかったか
ら、つぎは○○してみた
い。

思ったこと

○○したら、○○がで
きた。

○○したら、○○がわ
かった。

○○できて、○○だっ
た。

校内研修 国語科研究授業 協議記録

授業反省・質疑応答

信太

反省1「このあそびかた」の指示語の指導の際になかなか児童の意見が出にくかった。児童に意見を出させるための工夫が必要だった。

反省2めあてを「おもしろさ」ではなく、「わけ」に変更した。前時に児童から出た意見をもとに変更した。次時におもしろさについて指導していく予定。

質疑

花岡

語をもとに考えさせていたのは意図があったか。

一文一文で考えさせることも大切。

工藤

一人学び、ペア、グループでの学び合いは普段からおこなっているのか。また、意図があるのか。今回の学習では、児童の意見を取り入れて活動を変えた。

宇梶

自己の意見を出させるための手立て

ロイロノートで線を引くこと、それをもとに自己の意見をもつこと

指導講評【十文字女子大学 狩野浩二 先生】

文にわけることについて

段落全体で見ていくことで線を引くことができない児童がいるのではないか。そのため一文ごと取り扱うことで低位の児童のためになるのではないか。また、全時間そういった方法でおこなうのではなく、ここぞという場面でおこなう。「この」で児童はひっかかってしまう。そうならないための対策する必要がある。段落ではなく文に番号をふっていき、文ごとに指示をだせるようにしていく。

「ゆうり」について

子供が単元の読み取りの際に、こういった言葉を出した。児童の言葉から考えることにより子どもたちの反応が変化する。それが子供の学力の伸びを表している。子供の心の動きによって理解力が異なる。児童の言葉を使い、児童とともに学習を考えていく姿勢。深い学びにしていけるためには、教材文から課題を捉え、児童が学びたいという思いをもたせるためには、児童が必死に考える機会を作っていく。今回の学習では、鬼や逃げる人に対する負担を減らすようにしていくことで、お互いに理解することにつながる。第3段落から第4段落にかけて、鬼に有利なことしか書かれていない。行間にかかっていることを読み取る必要がある。教材をより深く学んでいくことが重要。

第4学年3組 算数科学習指導案

令和5年 2月7日 (火) 第6校時
場所 4年3組教室
在籍児童数 男子14名女子13名 計27名
指導者 教諭 見澤 卓

1 単元名 小数のかけ算とわり算

2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、算数の授業で計算の仕方や考え方を説明する学習に取り組んでいる。昨年度はかけ算の筆算、今年度の1学期にはわり算の筆算の学習を行った。多くの児童は筆算の仕方を理解し、授業にも積極的に参加している。その一方で、児童同士で筆算の手順を説明したり、発表したりし合う活動になると、自分の考えを整理して話すことができる児童は少ない。本単元を通して、数学的な見方や考え方を生かして説明することができる児童の育成を目指す。

3 単元の目標

- ・既習の乗除計算の仕方や整数倍の学習を基に、小数 \times 整数、小数 \div 整数、整数 \div 整数で積や商が小数になる場合の計算の仕方を理解し、答えを求めたり小数倍を求めたりすることができる。【知識・技能】
- ・数の構成に着目し、小数 \times 整数、小数 \div 整数、整数 \div 整数で積や商が小数になる場合の計算の仕方を考え説明したり、整数倍の学習を基に小数倍の意味について考え説明したりしている。【思考力、判断力、表現力等】
- ・小数 \times 整数、小数 \div 整数、整数 \div 整数で積や商が小数になる場合の計算の仕方を既習の乗除算の仕方を基に考えたり、小数倍の意味を整数倍の意味を基に考えたりした過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき、学習したことを今後の学習に活用しようとしたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 研究主題について

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

(1) 目指す児童像

小数のかけ算やわり算の計算の仕方を理解し、友達に説明したり発表したりする児童

(2) 手立て② 表現すること

授業ごとに自分の考えを説明する時間を設け、学習内容の定着を図る。自分の解法の説明をする事は多くの児童が苦手としていることから、説明する内容をノートにまとめて読んでも良いことにする。その場合、書けたグループから発表し、書き始めることができない児童については、その発表を見ても良いことにする。また、単元の前半は教師と共に書く内容を途中まで教師と共に書くことにより、書き出しで悩んでしまうことを防ぐ。単元の後半では、教師の板書を減らし、児童の発言を生かして考えを書かせることで「自分の考えをもち、発表する」活動に近づけていく。

5 単元の指導計画

時	学習内容 (○数学的活動)	指導上の留意点	学習評価・評価方法 指導に生かす評価(・) 記録に残す評価(☆)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	<ul style="list-style-type: none"> ・小数×整数の計算の仕方 ○これまでに学習したかけ算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1 が○個あるという説明の仕方を確認させる。 	既習の乗法の計算の仕方を用いて、小数×整数の計算をすることができる。	d1や0.1L、乗法の性質に着目して、小数×整数の計算の仕方を考え、説明している。	
②	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10の位までの小数×1位数の筆算仕方 ○これまでに学習したかけ算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1 が○個あるという説明の仕方を確認し、互いに読み合わせる。 	既習の乗法の計算の仕方を用いて、1/10の位までの小数×1位数の筆算の仕方について考え、説明している。	乗法の性質に着目して、1/10の位までの小数×1位数の筆算の計算の仕方について考え、説明している。	
③	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10の位までの小数に1位数や2位数をかける筆算の仕方 ○これまでに学習したかけ算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.1 が○個あるという説明の仕方を確認し、互いに説明し合わせる。 	1/10の位までの小数に1位数や2位数をかける筆算(被乗数が純小数の場合や、積の末位が0になる場合を含む)の仕方を理解している。	前時に学習した筆算の方法に着目し、被乗数が純小数の場合や、積の末位が0になる場合を含む場合においても計算方法は変わらないことを説明している。	
④	<ul style="list-style-type: none"> ・1/100の位までの小数×1位数の筆算の仕方 ○これまでに学習したかけ算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.01 が○個あるという説明の仕方を確認し、どんな計算にも活用できることに気づかせる。 	既習の乗法の筆算の仕方を用いて、1/100の位までの小数×1位数の筆算ができる。	乗法の性質や1/10の位までの小数×1位数の計算の仕方に着目して、1/100の位までの小数×1位数の筆算の仕方	既習の乗法の筆算の仕方に基づいて考えた過程を振り返り、学習に生かそうとしている。

				について考え、説明している。	
⑤ 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ $1/1000$ の位までの小数 $\times 1$ 位数の計算の仕方 ○これまでに学習した小数のかけ算を生かして計算の仕方を説明する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.001 が \bigcirc 個あるという説明の仕方を確認し、どんな計算にも活用できることに気づかせる。 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かして、小数のかけ算やわり算の筆算の仕方を説明している。 	
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数 \div 整数の計算の仕方 ○これまでに学習したわり算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.1 が \bigcirc 個あるという説明の仕方を確認させる。 	既習の除法の計算の仕方を用いて、小数 \div 整数の計算をすることができる。	d1 や 0.1L に着目して、小数 \div 整数の計算の仕方を考え、説明している。	
⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・ $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の計算の仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.1 が \bigcirc 個あるという説明の仕方を確認させ、互いに読み合わせる。 	既習の除法の筆算の仕方を用いて、 $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の筆算ができる。	小数点の位置に着目して、 $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の筆算の仕方について考え、説明している。	
⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・ $1/10$ の位までの数 $\div 1$ 位数の計算の仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.1 が \bigcirc 個あるという説明の仕方を確認させ、互いに説明し合わせる。 	既習の $1/10$ の位までの数 $\div 1$ 位数の計算の仕方を用いて、商が純小数になる場合の除法の筆算の仕方を理解し、計算することができる。	小数点の位置に着目して、 $1/10$ の位までの小数を 1 位数や 2 位数でわる筆算(商が純小数になる場合を含む)の仕方について考え、説明している。	
⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・ $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の計算の仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0.01 が \bigcirc 個あるという説明の仕方を確認させる。 	既習の $1/10$ の位までの小数 $\div 1$ 位数の計算の仕方を用いて、 $1/100$ の位	$1/100$ の位までの小数を 1 位数や 2 位数でわる筆算の仕方を、既習の除	既習の除法の筆算の仕方を基にして考えた過程を振り返り、学習に生

			までの小数を1位数や2位数でわる筆算(商が純小数になる場合や、被除数が純小数の場合を含む)ができる。	法の筆算を基に考え、説明している。	かそうとしている。
⑩	<ul style="list-style-type: none"> 被除数が小数の場合の、余りのある除法の計算の仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・0.01が○個あるという説明の仕方を様々な位が登場するわり算でも活用することができることに気づかせる。 	被除数が小数の場合の、余りのある除法の計算ができる。	筆算に用いられる数字の意味に着目して、余りのある除法の筆算について考え、説明している。	
⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・小数点以下に0を補うことを用いて、整数÷整数の筆算をわりきれるまで計算する仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・6÷4の余り2は0.1が○個であることを気づかせる。 	小数点以下に0を補うことを用いて、整数÷整数の筆算をわりきれるまで計算することができる。		
⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・被除数の末尾に0を補うことを用いて、小数÷整数をわりきれるまで計算する仕方 ○これまでに学習したわり算の筆算のきまりを生かして計算する活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・1の位に0を立ててから小数のわり進みをさせる。 	被除数の末尾に0を補うことを用いて、小数÷整数をわりきれるまで計算することができる。 わりきれない除法で、四捨五入を用いて概数で商を求めることができる。		
⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・何倍かを表す数を求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・表の作成時に色分けをし、区 	既習の倍の意味や計算を基	2つの数量の関係に着目して、	

	○倍の計算を基に、小数が何倍かを表すことに用いられることを説明し合う活動	別が付きやすく書かせる。	に小数倍について理解し、何倍かを表す数を求めることができる。	小数倍について図を用いて考え、説明している。	
⑭	・倍を表す数が純小数のときの意味 ○倍の計算を基に、小数が何倍かを表すことに用いられることを説明し合う活動	・表の作成時に色分けをし、区別が付きやすく書かせる。	倍を表す数が純小数のときの意味を理解し、何倍かを表す数を求めることができる。	基準となる数や小数倍の意味に着目して、純小数倍の意味について考え、説明している。	
⑮	・学習内容の定着 ○これまでの学習を生かして問題に取り組む	・問題数を調整し習熟度に応じた学習を行わせる。	基本的な問題を解決することができる。	数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。	単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしている。

6 本時について（本時5 / 15時）

（1）本時の目標

これまでの学習を生かして、小数のかけ算やわり算の筆算の仕方を説明することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

（2）展開

学習活動	◎教師の発問・児童の反応	○指導上の留意点 ◇評価基準 ⇒支援	時間
1 本時のめあてを確認する。	◎学習課題を確認します	○前時までの学習を想起させ、本時の学習課題を設定する。	3分
これまでの学習を生かして、小数のかけ算やわり算の計算の仕方を説明しよう。			
2 1.361×7 をノートに書く。	◎式と筆算を書きましょう。 ・式 1.361×7 1. 3 6 1 × 7	○教科書から大切な言葉を抜き出すようにさせる。 (①〇〇をもとに ②〇〇が何個なので) (整数に直すために〇倍して、答えを〇で割る。) ○書くことができた児童は前時までとの違いを書かせる。	2分
3 考え方をノートにまとめる。	◎どのように考えましたか？ ・「0.001」に着目して計算す	○1000 を超える計算や検算は電卓を使ってもよいこととする。 ○終わった児童には筆算の仕方を考えさせる。	10分

<p>4 自分の考えを発表する。</p>	<p>る。 ・「1361×7」の計算は0.001が9527個あるので小数点を9.527に移動する。 ◎書けた人は発表します。 ・1.367×7は0.001が1367個あると考える。 ・「1361×7」の答えを1000で割る。(1/1000)</p>	<p>◎発表の仕方でも良かったところを聞く。 ◎小数点を最後に戻すことの意味を話せるよう指導する。 ⇒書くことができなかった児童は黒板を写しても良いことを伝える。</p>	<p>5分</p>
<p>5 他の式で自由に問題を作成する。</p>	<p>◎他の式でも説明します ・9.999×9は0.001が9999個あると考える。 ・「9999×9」の答えを1000で割る。(1/1000)</p>	<p>◎小数第4位以降の小数の場合の計算を作りたいと提案があった場合には認める。 ◎ペアで式と言葉を作ってから活動させる。</p>	<p>15分</p>
<p>6 考えた問題を互いに説明し合う。</p>	<p>◎作った問題をペア以外の友達にも説明します。</p>	<p>◇これまでの学習を生かして、小数のかけ算やわり算の筆算の仕方を説明している【思・判・表】(発言・ノート) ⇒他の式を立式する場合は教科書の問題を使ってもよいと伝える。</p>	
<p>6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◎今日学習したことをまとめます。 ・位が増えても0.1、0.01、0.001・・・が何個あるかに着目すれば答えを求めることができる。</p>	<p>◎「どんなときもまとめが活用できることを繰り返し確認する。 ◎まとめが書けたら説明が上手だった児童について感想を書き、発表させる。</p>	<p>10分</p>

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2 / 14 小数のかけ算</p> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;"> $1.361 \times 7 =$ $\begin{array}{r} 1.361 \\ \times \quad 7 \\ \hline \end{array}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>◎小数第3位まである！</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>これまでの学習を生かして、小数のかけ算やわり算の計算の仕方を説明しよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>○をもとにして考えると、$○ \times 7 = 9527$ これは○○が9571個あるので 答えを○○する。よって $1.361 \times 7 = 9.527$ です。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>小数の位が増えても0.1、0.01、0.001・・・が何個あるかに注目すれば計算することができる。</p> </div>
---	---

校内研修 算数科研究授業 協議記録

授業者反省

- ・指導案から本時の展開を変えた。

指導講評 【東京学芸大学 藤井 斉亮 様】

- ・協議会では、全体で話し合う時間もあるよい。
- ・授業協議会、授業研究、研究授業の違い

【授業研究5つの構成要素】

1. 目標設定と実態把握、計画立案（研究主題の設定） 2. 学習指導案の検討と作成（目標の学習指導案化） 3. 研究授業（観察資料収集） 4. 研究協議会（収集した資料に基づく研究協議・評価） 5. 振り返り反省と研究紀要等の作成・発行

- ・授業研究は「問いから始まる」 講師が答えをもっているものではない。
- ・日本の教員の研究への主体的な取組が注目されている。
- ・【カリキュラム3層】

意図したカリキュラム（学習指導要領）、実行したカリキュラム（授業）、達成したカリキュラム（学力調査、PISA、TIMSS）

→算数数学は国際的に違いが少ない。

- ・研究協議は、「若手が教師としての学び方を先輩教員から学ぶ場」
- ・教科書にない問題に取り組むのはとてもよい。ただし、なぜその問題に取り組むのかの意義を指導案上に明記する。授業者の意図。
- ・感想を書きなさい（情意面）わかったことを書きなさい（認知面）学習感想を書きなさいだと、両面出てくる。学習感想を前時の振り返りとして取り扱う。

【学習感想のレベル】

レベル3 友達の名前が出てくる。自分の思考を客観し、他者の考えを比較できる。

レベル4 授業の内容から発展的になる

- ・表現の裏側には思考がある。思考をさせないと表現がない。
- ・「0. 001をもとにすると」は、とてもよい表現。指導案上に書かれているが、前時までに出ていない。
- ・1. 361×7 は、結合法則。0. 001をもとにする考え方を算数の用語にした。

ICT の取組

1 ICT を活用した実践報告の作成

小学校・生活科・1年

あきのおもちゃをともだちにしようかいしよ

1 Chromebook 活用のねらい
○自分で作った秋のおもちゃを友達に紹介する。

2 事前準備
(1)秋のおもちゃを作る。
(2)秋のおもちゃで遊ぶ。
(3)秋のおもちゃを友達に紹介する。
(写真を撮る。→工夫点、面白いところを記入する。)
(3)



3 活用の様子
(1)作製した秋のおもちゃをタブレットで撮影する。
・向きを変えて何枚か撮影する。
(2)工夫したところを付箋で記入する。
・見た目が黄色、遊び方がピンクなど
色分けできる児童は付箋の色を変えさせる。
(3)交流する。
・友達のジャムボードを見てから、実際に遊んでみる。



4 活用の効果
・おもちゃを作ることに児童の意識が向きがらだが、写真と工夫点などをまとめることで客観的に自分の作品を見つめ直す機会になった。また、友達と ICT を使って交流することで、新たに気付いたことを伝え合う児童もいた。

(執筆者:新産市立新堀小学校 教諭・小林久乃)

小学校・生活科・2年

JAMBOARD を活用した植物の観察日記

1 Chromebook 活用のねらい
・ミニトマトの様子を JAMBOARD でまとめることができる。
・絵を描くことが苦手な子でも写真を撮るだけでまとめやすい。

2 事前準備
(1)JAMBOARD でスライドを作成する。
(2)Classroom で課題を作成する。
(3)GoogleDrive に(1)で作ったスライドを追加する。
(4)(3)を各生徒にコピーを作成する。

(1) (2)(3) (4)



3 活用の様子
(1)ミニトマトの様子をタブレットで撮影する。
・前回と比べて変わったところをタブレットで撮る。
(2)JAMBOARD に挿入する。
・前回のスライドに写真を追加することで、変化に気付くようにする。
(3)気が付いたことを付箋に書いて、貼り付ける。
・葉は緑色付箋、実は黄色付箋、その他は赤付箋と観点ごとに付箋の色を変える。
(4)変化したことを伝え合う。
・ペアに伝える。
・全体に伝える。



4 活用の効果
(1)写真をためておくことで、前回と比較することが可能である。全体写真に加えて葉や花の部分を押入することで詳しくまとめることができる。

(執筆者:新産市立新堀小学校 教諭・工藤俊輔)

2 成果と課題

(1) 教師の技能向上

成果：ビデオを作成した。ロイロ、クロムブックの活用の幅を広げた。
課題：いつ見るのかを伝える必要がある。(4月 できれば研修・家庭)

(2) ロイロノート整理

成果：数多くの実践を行い、まとめることができた。
課題：フォルダの場所をつくるができなかった。
整理する時間がとれない。(学年フォルダを整理する時間を設定する。)

(3) 実践報告

成果：多くの教科の実践を広げることができた。
課題：活用しただけになっていないか。より効果的な方法を模索していく。

3 来年度の活動

(1) やってもらって活用方法を紹介する。

(2) 必ず授業で活用していただく

(3) 児童への指導を研修する。(タイピング関係の注意点、家庭でのゲーム活用禁止、アイコンの変更禁止、デスクトップ変更禁止、指示外の使用の制限など)

調査部の取組

1 児童アンケートの実施

【児童アンケート項目】

① 自分のめあてに向けて学習していますか。	はい	すこし はい	すこし いいえ	いいえ
② 自分の考えをもって学習していますか。	はい	すこし はい	すこし いいえ	いいえ
③ 自分を表現する活動の中で好きな活動はどれですか。	文を書く 絵をかく 歌う		話し合う 説明する 体を動かす	
④ 自分の思いや気持ちを友達と伝え合っていますか。	はい	すこし はい	すこし いいえ	いいえ
⑤ ③のような活動の時に、自分の思いや気持ちが友達に伝わったと思いますか。	はい	すこし はい	すこし いいえ	いいえ

2 成果と課題

(1) 成果

アンケート結果（抽出3学級に調査）

①自分のめあてに向けて学習していますか。			
事前	「はい」「少しはい」 87%	「いいえ」「少しいいえ」 13%	3%増加した。
事後	「はい」「少しはい」 90%	「いいえ」「少しいいえ」 10%	
②自分の考えをもって学習していますか。			
事前	「はい」「少しはい」 85%	「いいえ」「少しいいえ」 15%	4%増加した。
事後	「はい」「少しはい」 89%	「いいえ」「少しいいえ」 11%	
③自分を表現する活動の中で好きな活動はどれですか。			
事前	「説明する」「話し合う」を選んだ児童の割合が47%		1%増加した。
事後	「説明する」「話し合う」を選んだ児童の割合が48%		
④自分の思いや気持ちを友達と伝え合っていますか。			
事前	「はい」「少しはい」 79%	「いいえ」「少しいいえ」 21%	11%増加した。
事後	「はい」「少しはい」 90%	「いいえ」「少しいいえ」 10%	
⑤③のような活動の時に、自分の思いや気持ちが友達に伝わったと思いますか。			
事前	「はい」「少しはい」 77%	「いいえ」「少しいいえ」 23%	5%増加した。
事後	「はい」「少しはい」 82%	「いいえ」「少しいいえ」 18%	

○研究授業や普段の授業の中で、「伝え合う活動」を取り入れたため、表現する機会が増えた。

○児童も自分を表現することや友達と伝え合うことに良さを見い出すことができた。

○表現する活動を設定することで、主体的に学習に取り組む児童が増えた。

(2) 課題

△選択式のアンケートだけでは、根拠が見取りづらい。記述式を取り入れた方がよいか。

△表現力低位の児童への手立て、支援を考える必要がある。

研究の成果と課題

成果

- ・児童が意欲関心を引き出す課題を提示することができた。
- ・身近な題材から興味を引き出す工夫をすることができた。
- ・学習のはじめに「どのようなことを学びたいですか。」と発問することで引き出すことができた。
- ・ロイロノートで既習事項の確認をすることができた。
- ・自分の考えをもつことができています。
- ・身近にある課題を提示することができてよい。
- ・実験の結果を予想することができている。

課題

- ・ICT 機器の活用により、友達の考えをそのまま写す子がいたので心配である。
- ・個別最適な学びでどこまでさせていけばよいのか。
- ・考えをもてない子に対する対応がわからない。そのまま写している子もいる。
- ・考えたことにどのような根拠があるのかを考えさせたい。

御指導いただいた先生方

十文字女子大学 教育人文学部 児童教育学科 教授 狩野 浩二 様
東京学芸大学 名誉教授 藤井 齊亮 様

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ○研究推進委員

【令和4年度】

校長	若林 寿	教頭	山崎 孝雄	教務主任	○花岡 重治		
井口	裕美	村田	聡子	○小林 久乃	秦 薫	◎信太 健一	
今村	晃子	宇梶	優	○工藤 俊輔	木村 弥生	馬場 春樹	○見澤 卓
小島	桂子	○金子	正央	國原 健介	○熊倉 徹	江原 美穂	
内海	千寿	福永	彩花	榎本 睦美	清水 直子	蜂谷 啓子	
西淵	博子	矢吹	雪江	川南久美子	水野谷正樹	原 伊佐子	平田 泉



新座市立新堀小学校